

第 1 章

毎日の子育て生活

山岡 テイ



「犯罪や事故に巻き込まれること」が63.1%でトップ。「整理整頓・片づけ」54.2%、「友だちとのかかわり方」43.7%が気がかりの上位3位。学校段階別では小・中学生ともに“日常のしつけ”や“食育”には関心が低く、“学習や進学関連”の気がかりが上昇した。

● 子どもの安全は何より優先

小学生は生活習慣、中学生は学習習慣

子育て生活のなかでの「悩みや気がかり」について38項目から複数回答してもらった(図1-1-1)。

小1生から中3生までの全体では「犯罪や事故に巻き込まれること」が63.1%で第1位であった。近年、多発する犯罪や事故からどのように子どもを守るかは保護者や学校・社会が直面する現在の急務課題でもある。

しかしながら、第2位には「整理整頓・片づけ」ができない悩みが54.2%であげられていた。第3位は「友だちとのかかわり方」43.7%で、「子どもの性格、現在の態度や様子」が35.3%と気になり、「ほめ方・しかり方」34.3%など、日常のしつけに悩む様子が表れていた。上位2つは小・中学生に共通して高い選択率の気がかりである。

学校段階別では、小学生は「ほめ方・しかり方」や「食事のしつけ」への関心が高く、中学生では「家庭学習の習慣」「子どもの進路」「学校の宿題や予習・復習」の選択率が高かった。

母親の就業状況別にみると、専業主婦は「食の安全性」「犯罪や事故に巻き込まれること」「ほめ方・しかり方」の回答が多く、パートやフリーでは家計経済にも関係している「子どもの教育費」の回答が多かった。

また、常勤は「翌日の学校の用意や準備を

すること」「学校の宿題や予習・復習」「仕事と家庭の両立」の割合が高かった(図表省略)。

● しつけや自律性への関心が減り、「友だちとのかかわり方」や「子どもの進路」「受験準備」が増加

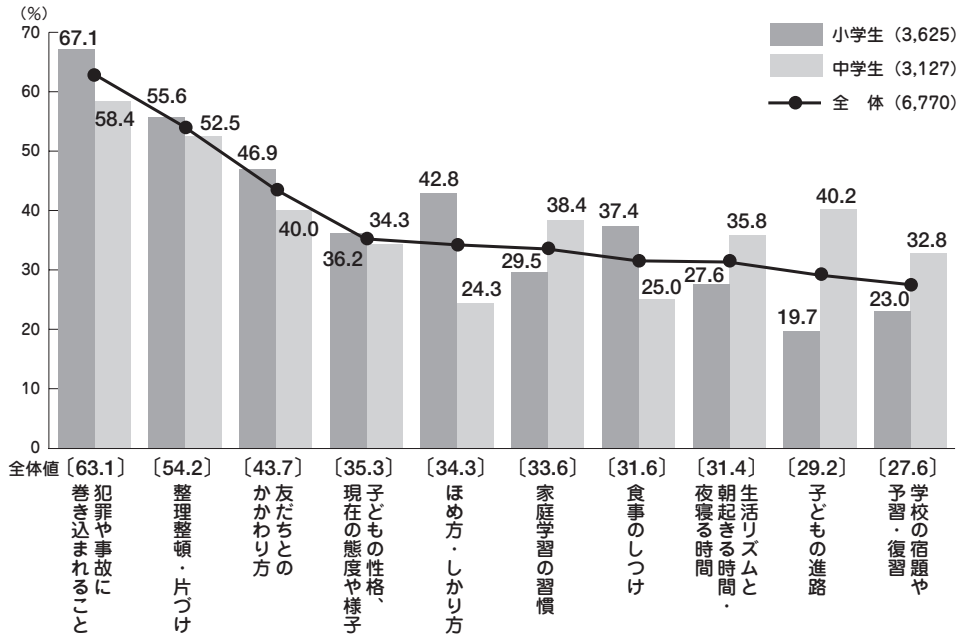
98年調査、02年調査と今回の07年調査で変化があった項目を示したのが図1-1-2である。

第1位の「犯罪や事故に巻き込まれること」は今回はじめて設定した項目のため経年比較はできないが、02年調査では第1位で今回は第2位の「整理整頓・片づけ」や「生活リズムと朝起きる時間・夜寝る時間」「子どもの食事のとり方」など生活習慣や子どもの自律性を育てることへの関心は減少していた。

また、「食育」の重要性が問われているなかで「子どもの食事のとり方」の経年変化は98年調査29.9%→02年調査28.6%→07年調査22.5%と下降し、「食の安全性」も同38.6%→26.4%→20.0%と低下していた。

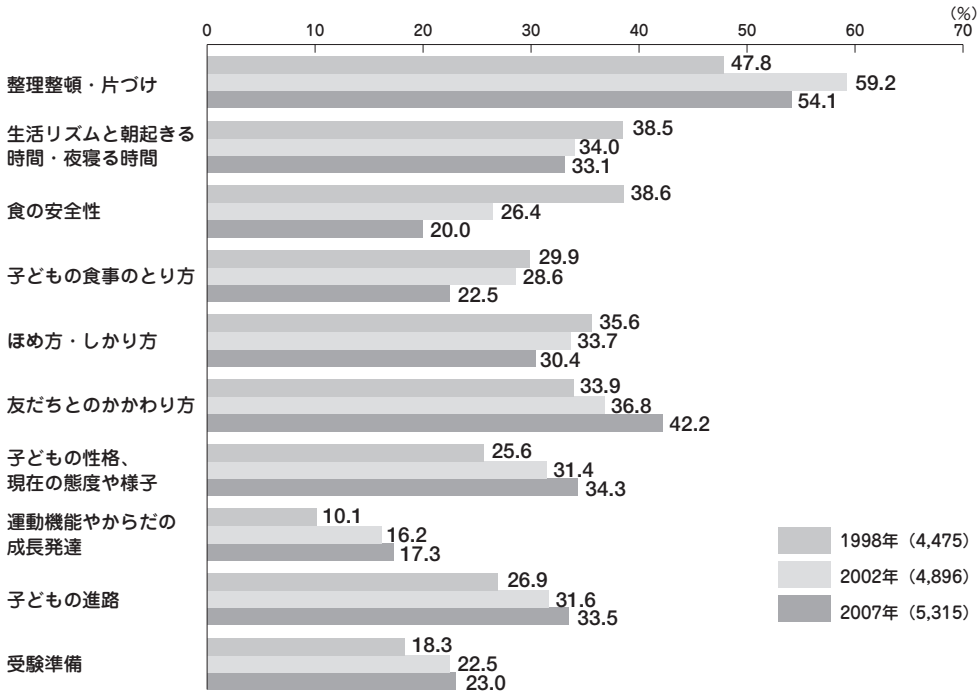
その一方で、子ども自身の「友だちとのかかわり方」の気がかりは高まっていた。さらに、学年差や個人差はあるが、「子どもの性格、現在の態度や様子」「運動機能やからだの成長発達」に関する悩みも増えていた。また、「子どもの進路」や「受験準備」への関心も高まる傾向を示していた。

図1-1-1 現在の子育ての気がかり(全体・学校段階別)



注1) 複数回答。38項目中全体値の上位10項目を図示した。
 注2) 「全体」には学校段階が不明の者も含む。
 注3) 項目は一部、略記した。詳細は調査票見本 (p.137) を参照。
 注4) () 内はサンプル数。

図1-1-2 現在の子育ての気がかり(経年比較)



注1) 複数回答。38項目中10項目を図示した。
 注2) 小3～中3生の数値。
 注3) 項目は一部、略記した。詳細は調査票見本 (p.137) を参照。
 注4) () 内はサンプル数。

女子は犯罪や事故、友だち関係の割合が高く、男子は食事マナーと家庭学習が高い
 〈小学生〉

子育ての悩みや気がかりを学年別と性別で上位10位までを比較したのが表1-1-1と表1-1-2である。

小学生でとくに男子の気がかりとして割合が高かったのは、「食事のしつけ」「家庭学習の習慣」「家での遊び」であった。

一方、女子では「犯罪や事故に巻き込まれること」がすべての学年で男子より高くなっており、母親の不安な心情が表れていた。「友だちとのかかわり方」は友だち関係が難しくなってくる中・高学年の女子で割合が高い悩みであった。

学年別でみると、低学年では「あいさつやお礼の習慣」「しつけの仕方」の他に母親自身の周囲との「人間関係」の悩みも3割前後があげていた。

中・高学年では、「家庭学習の習慣」が第7位にあげられており、とくに小6生では男子のほうの関心が明らかに女子より高くなっていった。また、小6生で「子どもの進路」が今回は第6位にあげられていたが、中学受験を「させる」と回答した小6生の母親は02年調査の20.9%から07年調査では26.6%に上昇していた（図表省略）。

「食の安全性」は98年調査では小3～小6生のすべての学年で上位にランクされ、「子どもの食事のとり方」も98年、02年調査ともすべての学年で10位以内に入っていた。しかし、これら2項目について今回の調査で10位以内に入っているのは小5生の第9位の「子どもの食事のとり方」のみである。小学生の母親の食生活に関する悩みが減少しているといえる。これは1998年の調査当時にO-157や環境ホルモンの人体への影響などが社会問題になっていたことと関係していたと思われる。

表1-1-1 現在の子育ての気がかり（全体・学年別×性別）①

(%)

順位	全体		小1生		小2生		小3生		小4生	
	男子(3,519)	女子(3,212)	男子(387)	女子(338)	男子(362)	女子(343)	男子(310)	女子(346)	男子(311)	女子(267)
1	犯罪や事故 男子 58.1 女子 68.7		犯罪や事故 68.5 75.1		犯罪や事故 66.6 74.3		犯罪や事故 61.0 74.9		犯罪や事故 61.4 68.5	
2	整理整頓・片づけ 男子 54.2 女子 54.0		整理整頓・片づけ 50.9 53.8		整理整頓・片づけ 57.5 55.4		整理整頓・片づけ 58.7 57.2		整理整頓・片づけ 56.3 54.7	
3	友だちとのかかわり方 男子 41.4 女子 46.4		友だちとのかかわり方 49.6 50.6		友だちとのかかわり方 47.8 48.7		友だちとのかかわり方 44.8 45.4		友だちとのかかわり方 42.4 50.9	
4	子どもの性格・態度 男子 35.9 女子 34.5		ほめ方・しかり方 48.3 50.9		ほめ方・しかり方 46.7 47.5		ほめ方・しかり方 44.8 38.7		ほめ方・しかり方 41.8 41.2	
5	ほめ方・しかり方 男子 33.6 女子 34.8		子どもの性格・態度 45.0 41.4		食事のしつけ 39.5 38.8		食事のしつけ 40.3 36.1		食事のしつけ 38.3 33.0	
6	家庭学習の習慣 男子 36.2 女子 30.6		食事のしつけ 47.3 38.8		子どもの性格・態度 34.3 34.7		子どもの性格・態度 39.4 35.3		子どもの性格・態度 36.3 29.2	
7	食事のしつけ 男子 33.5 女子 29.7		しつけの仕方 39.8 29.6		しつけの仕方 31.8 32.1		家庭学習の習慣 29.4 32.7		家庭学習の習慣 34.1 31.5	
8	生活のリズム 男子 30.7 女子 32.0		学校生活の様子 34.1 32.0		あいさつやお礼の習慣 28.7 28.3		人間関係 ★ 26.8 31.5		家での遊び 40.2 22.1	
9	子どもの進路 男子 30.3 女子 28.0		あいさつやお礼の習慣 35.4 28.4		人間関係 ★ 28.7 28.3		家での遊び 43.5 15.9		生活のリズム 27.7 28.1	
10	学校の宿題や予習・復習 男子 30.4 女子 24.5		人間関係 ★ 30.7 32.0		家での遊び 40.3 15.7		翌日の用意 32.3 26.0		人間関係 ★ 26.4 29.2	

注1) 複数回答。
 注2) ★印は母親自身の悩みや気がかり。
 注3) 項目は一部、略記した。詳細は調査票見本(p.137)を参照。
 注4) ()内はサンプル数。

● 女子は犯罪や事故と携帯・パソコン、男子は進路や学習習慣・成績が関心事〈中学生〉

中学生も第1位は「犯罪や事故に巻き込まれること」、第2位は「整理整頓・片づけ」で小学生と同様であった。

学年別に第5位までを比べると、中1生では第3位「友だちとのかかわり方」、第4位と第5位はそれぞれ「家庭学習の習慣」と「学校の宿題や予習・復習」で、日常での学習習慣を身につける内容である。ところが、中2生や中3生になると、中1生のときには第10位であった「子どもの進路」が第3位に浮上してくる。さらに、中3生では第4位に「受験準備」、第5位には「勉強の成績」と進学や勉強について母親の関心が高いことが表れていた。

性別でみると、「犯罪や事故に巻き込まれること」は女子が明らかに多く、「携帯電話やパソコンの使い方」も女子のほうが多い悩みである。他の設問で携帯電話の所有についてたずねたところ、中学生女子72.9%で、男子62.1%であった。さらにパソコンの使用率（「よく使う」＋「時々使う」の％）は女子、男子ともに66.0%で同率であるが、遊びとして使っている率は男子のほうが高い。したがって女子の場合は「携帯電話」の使い方に母親が頭を悩ませている様子が浮かび上がる。

一方、男子のほうが多いのは「家庭学習の習慣」「学校の宿題や予習・復習」「勉強の成績」など学習や成績に関することに集中していた。しかし、中3生で高校受験が目前になると「受験準備」は女子の割合が高く、「子どもの進路」も男女同率であった。

表1-1-2 現在の子育ての気付き（学年別×性別）②

(%)

順位	小5生		小6生		中1生		中2生		中3生	
	男子(227)	女子(246)	男子(237)	女子(236)	男子(593)	女子(493)	男子(527)	女子(467)	男子(554)	女子(470)
1	犯罪や事故 男子 58.1 女子 67.1		犯罪や事故 54.4 68.2		犯罪や事故 52.6 68.0		犯罪や事故 53.5 64.5		犯罪や事故 53.2 61.7	
2	整理整頓・片づけ 男子 62.1 女子 58.1		整理整頓・片づけ 51.1 52.1		整理整頓・片づけ 53.5 50.9		整理整頓・片づけ 56.0 54.6		整理整頓・片づけ 48.4 51.9	
3	友だちとのかかわり方 男子 46.7 女子 50.8		友だちとのかかわり方 34.2 48.3		友だちとのかかわり方 37.9 48.9		子どもの進路 45.0 39.8		子どもの進路 49.1 49.1	
4	ほめ方・しかり方 男子 40.5 女子 37.8		ほめ方・しかり方 32.9 32.6		家庭学習の習慣 42.8 38.9		友だちとのかかわり方 39.1 44.8		受験準備 42.6 47.9	
5	子どもの性格・態度 男子 38.8 女子 34.6		生活のリズム 29.5 34.7		学校の宿題や予習・復習 40.0 31.2		家庭学習の習慣 44.8 36.4		勉強の成績 40.3 35.5	
6	食事のしつけ 男子 41.9 女子 31.3		子どもの進路 33.3 29.2		子どもの性格・態度 33.7 36.9		勉強の成績 40.0 38.5		携帯・パソコンの使い方 35.0 41.5	
7	家庭学習の習慣 男子 34.4 女子 30.5		家庭学習の習慣 37.6 23.7		携帯・パソコンの使い方 30.5 39.1		携帯・パソコンの使い方 34.0 42.2		生活のリズム 36.8 38.3	
8	生活のリズム 男子 25.6 女子 36.2		お金の使い方 35.4 25.0		生活のリズム 32.5 35.1		生活のリズム 35.9 36.6		友だちとのかかわり方 35.6 35.5	
9	食事のとり方 男子 32.2 女子 26.4		家での遊び 41.4 18.2		勉強の成績 34.4 31.6		学校の宿題や予習・復習 37.8 32.1		子どもの性格・態度 34.8 31.5	
10	家での遊び 男子 37.4 女子 21.1		からだの健康★ 30.8 28.8		子どもの進路 30.2 29.0		子どもの性格・態度 32.8 36.0		家庭学習の習慣 37.2 28.7	

注1) 複数回答。

注2) ★印は母親自身の悩みや気付き。

注3) 項目は一部、略記した。詳細は調査票見本(p.137)を参照。

注4) ()内はサンプル数。

小学生の母親では「犯罪や事故に巻き込まれること」が一番の気がかりにあげる割合が高いが、“子どもに対するかかわり方”が母親の気がかりの中心。中学生の母親は親子のかかわりやしつけより、子どもの将来に向けた「受験準備」や「勉強の成績」が何よりの気がかり。

● 小学生の母親は「親子や友だち関係」、中学生の母親は「進路と勉強」が多い

前節でたずねた「現在の子育ての悩みや気がかり」のなかで「もっとも気にかかっていること」を1つだけ選んでもらった。

全体値の上位10位までの項目を図示したのが図1-2-1である。

図中の折れ線グラフは全体値を示し、その折れ線グラフから突出している棒グラフが小・中学生でそれぞれ割合が高い項目を示している。

小学生では、①「犯罪や事故に巻き込まれること」16.3%、②「友だちとのかかわり方」8.2%、③「子どもの性格、現在の態度や様子」6.7%、④「ほめ方・しかり方」5.7%、⑤「整理整頓・片づけ」3.6%であった。

中学生のほうは、①「子どもの進路」11.5%、②「犯罪や事故に巻き込まれること」9.9%、③「受験準備」7.0%、④「勉強の成績」6.2%、⑤「友だちとのかかわり方」5.9%の順となった。

小学生の母親の気がかりは、子どもの安全の確保が最優先であるが、親子関係も含め、子どもの人間関係や社会性の成長に焦点化されていた。一方、中学生になると、友だちや親子関係よりも子どもの将来を決める受験や勉強が最大関心事となっていた。

● 第1子の母親は子どものしつけ方略、第2子以降は子育て中の自分が関心事

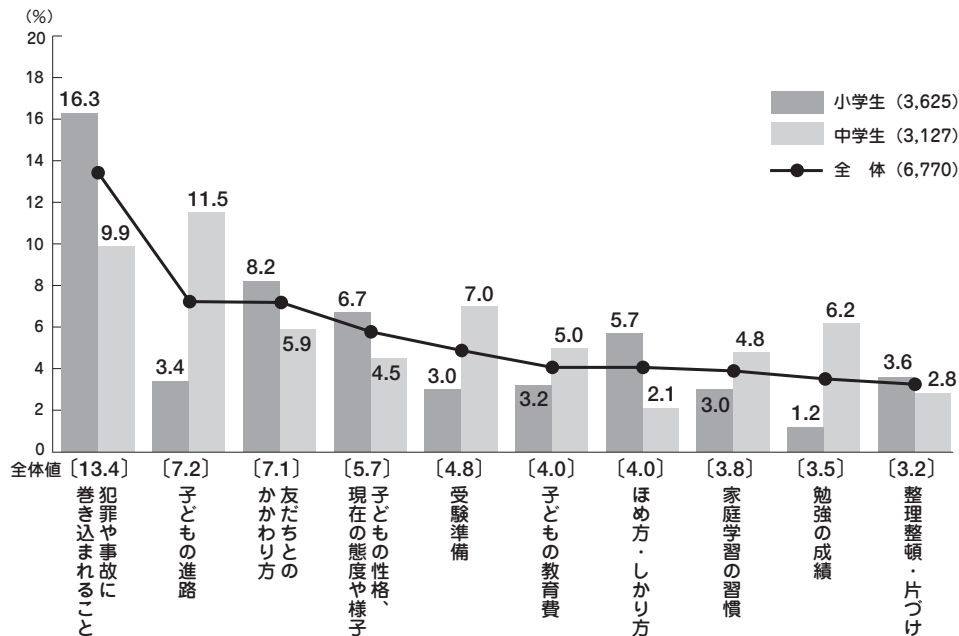
母親の子育ての気がかりは主として第1子の成長とともに変化する。とくに小学生の第1子の母親が第2子以降の母親に比べて多かった項目は「食事のしつけ」「子どもの性格、現在の態度や様子」「友だちとのかかわり方」「しつけの仕方」「ほめ方・しかり方」「子どもとの接し方」「受験準備」で、大半がしつけ方略に関することであった。第2子以降の母親は「子どもの教育費」、母親自身の「こころの健康」「仕事と家庭の両立」「これからの生きがいや始めたいこと」など直接的な子どもの問題よりは自分自身に関する項目が多かった（図表省略）。

● 進む「受験準備」の低年齢化

現在の一番の気がかりを学年別に示したのが図1-2-2である。「犯罪や事故に巻き込まれること」と「友だちとのかかわり方」は中学生で下降するが、「子どもの進路」と「受験準備」は中1生で一度低くなり、また急上昇カーブを描く。この傾向は98年調査、02年調査もまったく同じであった。

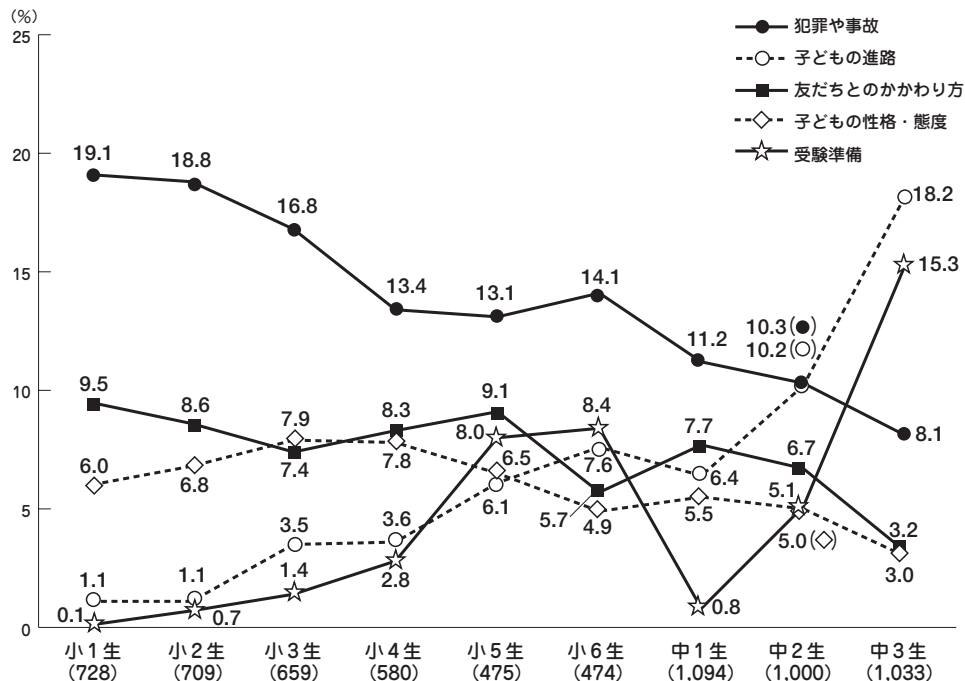
しかし、中学受験予定者の増加にともない、小6生で「受験準備」は98年調査3.4%→02年調査7.8%→07年調査8.4%と上昇しており（図表省略）、また、図からも「子どもの進路」は小5生から割合が高くなってきており、低年齢化していることが今回の調査の特徴であった。

図1-2-1 現在の一発の気がかり（全体・学校段階別）



注1) 38項目中から1つ選択。全体値の上位10項目を图示した。
 注2) 「全体」には学校段階が不明の者も含む。
 注3) 項目は一部、略記した。詳細は調査票見本 (p.137) を参照。
 注4) () 内はサンプル数。

図1-2-2 現在の一発の気がかり（学年別）



注1) 38項目中から1つ選択。
 注2) 項目は一部、略記した。詳細は調査票見本 (p.137) を参照。
 注3) () 内はサンプル数。

**低学年はしつけと母親自身の悩み、
学年が上がると学習や教育関連に移行
〈小学生〉**

現在の一番の気がかり上位10位までを学年別と性別で示したのが表1-2-1、表1-2-2である。

小学生では、全学年で第1位が「犯罪や事故に巻き込まれること」であった。

小1生から小4生までの低・中学年では第2位と第3位に「友だちとのかかわり方」と「子どもの性格、現在の態度や様子」「ほめ方・しかり方」が前後してあげられており、同じような項目が上位であった。

これらは98年調査と02年調査でもほぼ同様の結果が出ていることから、小学校の低・中学年の子どもをもつ母親に共通する代表的な気がかりといえるであろう。

低・中学年の第10位までをみると、3つの

要素で構成されている。それは“子どものしつけの仕方”、“親と子のかかわり”、そして「人間関係」「こころの健康」「仕事と家庭の両立」といった“母親自身の悩み”である。

ところが、学年が上がるとつれて「家庭学習の習慣」「受験準備」「子どもの進路」など“学習や教育関連”の項目が上位に上がり、“親と子のかかわり”に関する項目と入れ替わっている。

性別では男子のほうの数値が高いのは、低学年では「しつけの仕方」「子どもの性格、現在の態度や様子」であり、高学年では「家庭学習の習慣」である。一方、女子が高いのは「犯罪や事故に巻き込まれること」と「整理整頓・片づけ」「受験準備」「友だちとのかかわり方」などであった。

表1-2-1 現在の一番の気がかり（全体・学年別×性別）①

(%)

順位	全体		小1生		小2生		小3生		小4生	
	男子(3,519)	女子(3,212)	男子(387)	女子(338)	男子(362)	女子(343)	男子(310)	女子(346)	男子(311)	女子(267)
1	犯罪や事故 男子 10.7 女子 16.4		犯罪や事故 14.7 24.3		犯罪や事故 16.3 21.3		犯罪や事故 11.3 22.0		犯罪や事故 11.9 15.4	
2	子どもの進路 男子 8.0 女子 6.3		友だちとのかかわり方 10.3 8.6		友だちとのかかわり方 8.0 9.3		子どもの性格・態度 10.3 5.8		友だちとのかかわり方 8.0 8.6	
3	友だちとのかかわり方 男子 6.5 女子 7.8		ほめ方・しかり方 7.8 9.2		子どもの性格・態度 7.2 6.4		友だちとのかかわり方 6.5 8.4		子どもの性格・態度 8.4 6.7	
4	子どもの性格・態度 男子 5.9 女子 5.4		子どもの性格・態度 7.5 4.4		ほめ方・しかり方 7.2 6.1		整理整頓・片づけ 4.2 5.8		ほめ方・しかり方 5.1 4.9	
5	受験準備 男子 4.5 女子 5.2		しつけの仕方 7.8 3.3		整理整頓・片づけ 3.9 4.7		ほめ方・しかり方 5.5 4.3		家庭学習の習慣 5.1 3.7	
6	子どもの教育費 男子 4.1 女子 3.9		仕事と家庭の両立★ 4.9 3.3		しつけの仕方 5.2 3.2		子どもの進路 5.5 1.7		整理整頓・片づけ 4.5 4.1	
7	ほめ方・しかり方 男子 3.9 女子 4.1		食事のとり方 3.6 3.8		子どもの教育費 3.6 3.8		こころの健康★ 2.3 4.0		しつけの仕方 3.2 4.5	
8	家庭学習の習慣 男子 4.7 女子 2.8		人間関係★ 2.8 4.1		こころの健康★ 2.5 5.0		仕事と家庭の両立★ 2.3 3.8		食事のとり方 4.2 3.0	
9	勉強の成績 男子 4.0 女子 3.0		子どもとの接し方 2.8 3.0		仕事と家庭の両立★ 2.8 3.5		食事のとり方 2.9 2.9		子どもの進路 3.2 4.1	
10	整理整頓・片づけ 男子 2.8 女子 3.7		アレルギー 2.8 2.7		学校生活の様子 4.7 1.5		しつけの仕方 3.5 2.3		人間関係★ 2.6 4.1	

注1) 38項目中から1つ選択。

注2) ★印は母親自身の悩みや気がかり。

注3) 項目は一部、略記した。詳細は調査票見本(p.137)を参照。

注4) ()内はサンプル数。

● 進路に向けて勉強に励んでほしい男子、 携帯・パソコンの使い方が心配な女子 〈中学生〉

子どもが中学校に入学すると、母親の興味関心も新たな思いで再びスタートする。

中1生の母親は新しい環境のなかで「友だちとのかかわり方」や「子どもの性格、現在の態度や様子」「整理整頓・片づけ」が気になってくる。「勉強の成績」「家庭学習の習慣」も早い時期から関心の中心になっていた。

中2生では「子どもの進路」や「受験準備」が上位にあがってくる。中3生では、小1生から中2生まで共通して第1位であった「犯罪や事故に巻き込まれること」が第3位になり、「子どもの進路」が第1位で「受験準備」が第2位と、関心は学習に特化されていた。

性別による違いでは、男子は「子どもの進

路」「家庭学習の習慣」「勉強の成績」などの項目で割合が高かった。女子は「犯罪や事故に巻き込まれること」や「携帯電話やパソコンの使い方」が高い。さらに、「子どもの性格、現在の態度や様子」「友だちとのかかわり方」など子どもの交友関係に心を悩ませ、「受験準備」も女子のほうが高かった。

また、子どもは思春期で反抗的であるが、一方で母親は更年期を迎える世代でもあり、母親自身の「からだの健康」や「こころの健康」も一番の気がかりとしてあげられていた。

98年調査、02年調査と比べると、今回は「整理整頓・片づけ」「生活リズムと朝起きる時間・夜寝る時間」などの生活習慣の項目は中1生の第10位だけで少なく、また、中3生に母親自身の「これからの生きがいや始めたいこと」が入っていなかった点が異なる。

表1-2-2 現在の一番の気がかり（学年別×性別）②

(%)

順位	小5生		小6生		中1生		中2生		中3生	
	男子(227)	女子(246)	男子(237)	女子(236)	男子(593)	女子(493)	男子(527)	女子(467)	男子(554)	女子(470)
1	犯罪や事故 男子 8.8 女子 17.1	犯罪や事故 男子 11.0 女子 17.4	犯罪や事故 男子 10.1 女子 12.8	犯罪や事故 男子 7.0 女子 14.1	子どもの進路 男子 18.4 女子 18.3					
2	友だちとのかかわり方 男子 7.0 女子 11.0	受験準備 男子 7.6 女子 9.3	友だちとのかかわり方 男子 6.1 女子 9.5	子どもの進路 男子 12.0 女子 8.4	受験準備 男子 14.4 女子 15.7					
3	受験準備 男子 5.7 女子 10.2	子どもの進路 男子 7.6 女子 7.6	子どもの進路 男子 7.4 女子 5.3	勉強の成績 男子 7.8 女子 6.6	犯罪や事故 男子 7.6 女子 8.7					
4	子どもの性格・態度 男子 6.2 女子 6.9	友だちとのかかわり方 男子 5.5 女子 5.5	勉強の成績 男子 7.4 女子 5.1	友だちとのかかわり方 男子 6.6 女子 6.6	子どもの教育費 男子 6.7 女子 6.0					
5	子どもの進路 男子 9.3 女子 3.3	子どもの性格・態度 男子 6.8 女子 3.0	家庭学習の習慣 男子 6.7 女子 4.5	家庭学習の習慣 男子 8.5 女子 3.6	勉強の成績 男子 5.4 女子 4.5					
6	子どもの教育費 男子 4.4 女子 4.1	家庭学習の習慣 男子 6.3 女子 3.0	子どもの性格・態度 男子 5.1 女子 6.1	受験準備 男子 4.7 女子 5.4	携帯・パソコンの使い方 男子 2.0 女子 5.3					
7	家庭学習の習慣 男子 5.3 女子 2.0	ほめ方・しかり方 男子 3.8 女子 5.1	子どもの教育費 男子 5.1 女子 4.1	子どもの性格・態度 男子 4.0 女子 6.2	友だちとのかかわり方 男子 2.9 女子 3.6					
8	整理整頓・片づけ 男子 2.6 女子 4.1	子どもの教育費 男子 4.2 女子 4.7	携帯・パソコンの使い方 男子 3.5 女子 5.7	携帯・パソコンの使い方 男子 3.6 女子 4.5	子どもの性格・態度 男子 2.5 女子 3.6					
9	運動機能・からだの発達 男子 3.5 女子 2.8	からだの健康★ 男子 3.4 女子 3.8	仕事と家庭の両立★ 男子 3.9 女子 2.8	子どもの教育費 男子 4.2 女子 3.9	こころの健康★ 男子 3.4 女子 2.1					
10	仕事と家庭の両立★ 男子 3.1 女子 3.3	こころの健康★ 男子 3.4 女子 3.8	整理整頓・片づけ 男子 2.9 女子 3.2	からだの健康★ 男子 4.2 女子 3.2	からだの健康★ 男子 2.2 女子 3.0					

注1) 38項目中から1つ選択。
 注2) ★印は母親自身の悩みや気がかり。
 注3) 項目は一部、略記した。詳細は調査票見本(p.137)を参照。
 注4) ()内はサンプル数。

しつけや教育の情報源ベスト・スリーは「近所の友人・知人」「自分の親」「配偶者」で、母親は自分の生活感覚に近い人や準拠する集団から情報を選別している様子が顕著に表れていた。しつけや教育の情報源としての「インターネットやブログ」の回答割合は12.6%。

● 小学生の母親は身近で役立つ情報入手、中学生の母親は必要な専門情報を得る

「しつけや教育」の情報をどこから（だれから）得ているのかを20項目から複数回答で選んでもらった。

その結果を図1-3-1に示した。全体値をみると、①「近所の友人・知人」56.5%、②「自分の親」48.0%、③「配偶者」43.9%、④「テレビ・ラジオ」37.8%、⑤「近所ではない友人・知人」36.4%が上位5位であった。

学校段階別にみると、小学生では、「近所の友人・知人」や「自分の親」「配偶者の親」という回答が多く、身近で気軽に聞ける地域情報や自分の親族というファミリーから情報を得ていることが表れていた。

中学生のほうは、とくに、「テレビ・ラジオ」「新聞」「学校の先生」などメディアや教育に関する専門性の高い先生などから、あるいは直接「自分の子ども」から情報入手するという回答が多かった。

98年調査、02年調査と比較すると、「新聞」は98年調査43.6%→02年調査40.9%→07年調査36.6%と下降し、代わって「テレビ・ラジオ」が今回38.8%で第4位になっていた。

また、「近所ではない友人・知人」は同30.1%→35.6%→36.3%と上昇しており（巻末基礎集計表参照）、どの学年でも安定した水準で情報源になっていた。「近所ではない友人・知人」とは、学生時代やさまざまな機会に出会った生活感覚や教育に関する意識が近い友人をさすことが多い。今回、「インター

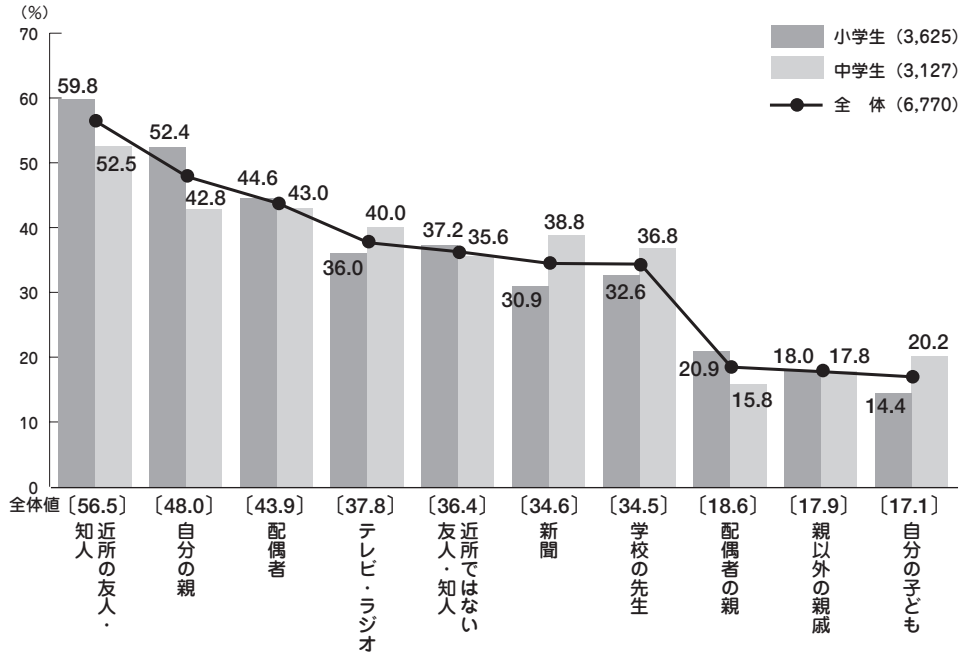
ネットやブログ」をしつけや教育の情報源として回答した割合は全体で12.6%であった。さらに、図表は省略するが「その他」として自由記述された379名のなかでもっとも多かった回答は「自分自身の経験や考え」（80名）であった。次は「職場や仕事を通じた知人・友人」（54名）、「教育・子育て関連の雑誌」（41名）、「宗教関係者や経典」（31名）、「講演会・セミナー」（17名）のほか、学童保育・保育所や幼稚園・大学の先生やカウンセラーなど自分が準拠する価値観、集団や人物が多く書かれていた。

● 常勤は「近所ではない友人・知人」「学校の先生」、専業主婦は「配偶者」「新聞」「配偶者の親」が情報源として多い

しつけや教育の情報源を母親の就業状況別に比較し、差がある項目を示したのが図1-3-2である。

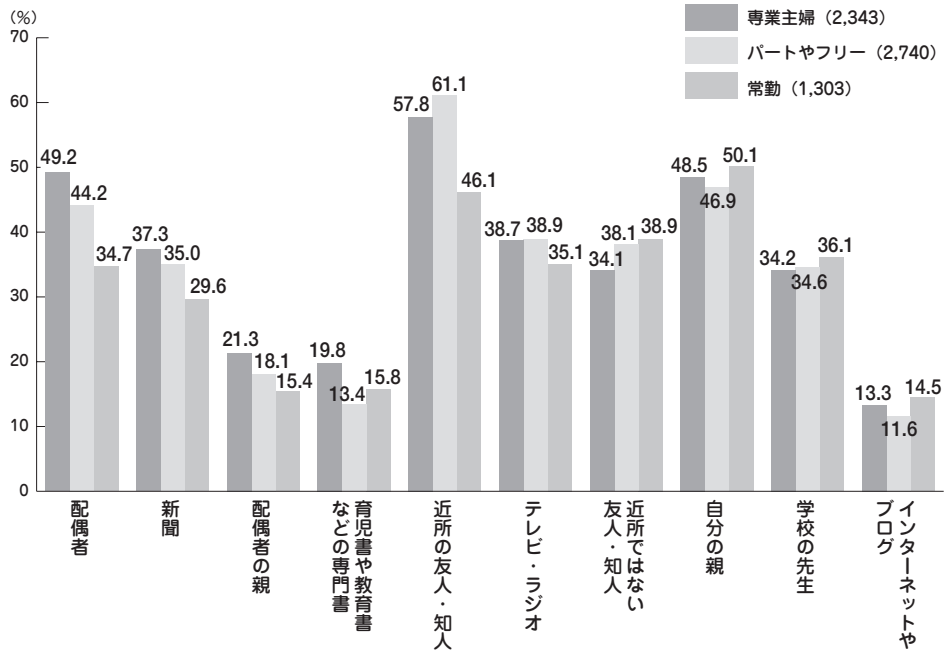
専業主婦は他と比べて「配偶者」「新聞」「配偶者の親」「育児書や教育書などの専門書」が多く、パートやフリーの母親は「近所の友人・知人」「テレビ・ラジオ」を他より多くあげていた。常勤の母親は「近所ではない友人・知人」「自分の親」「学校の先生」「インターネットやブログ」が相対的にみて多かった。それぞれが準拠して重要視するコミュニティ、生活や行動時間をともにする人やメディアが多く選ばれていたのが特徴的であった。

図1-3-1 しつけや教育の情報源（全体・学校段階別）



注1) 複数回答。20項目中全体値の上位10項目を図示した。
 注2) 「全体」には学校段階が不明の者も含む。
 注3) () 内はサンプル数。

図1-3-2 しつけや教育の情報源（就業状況別）



注1) 複数回答。20項目中10項目を図示した。
 注2) () 内はサンプル数。

まわりの人的ネットワークを活用して子育て生活をしている母親たち。さまざまな情報を適時に活用するが、そのなかでも専業主婦は「配偶者」、パートやフリーは「近所の友人・知人」、常勤は「自分の親」を何より参考とする情報源としていた。

● とくに参考にする情報源は

子育て生活のサポート・ネットワーク

しつけや教育の情報源のなかで、とくに参考に行っている人やものを上位3つ選んでもらい、第1位から第3位までを合算した結果を図1-4-1に示した。

第1位から第3位までの合算値の上位は、①「近所の友人・知人」41.7%、②「自分の親」33.7%、③「配偶者」32.8%、④「近所ではない友人・知人」24.1%となり、母親の子どもへのしつけや教育をサポートするまわりの人的ネットワークがあげられていた。

母親の子育て生活で「もっとも気がかりなこと」と参考情報源の第1位にあげた人との関係をかけ合わせて比べた。その結果では、小学生では、「しつけの仕方」や「友だちとのかかわり方」を一番の気がかりにしている母親は「近所の友人・知人」を参考情報源第1位に選ぶ傾向が強かった。「子どもにあった習い事や塾、教材選び」を一番の気がかりとする母親は、「インターネットやブログ」「学校の先生」「近所の友人・知人」から情報を得るという回答が多かった。「配偶者」を参考にする情報源の第1位として選んだ母親は、小学生では子どもの「ほめ方・しかり方」や「犯罪や事故に巻き込まれること」、中学生では「子どもの進路」を一番の気がかりとして選択していた。

とくに中学生では、「子どもの性格、現在の態度や様子」や「お金の使い方」「携帯電

話やパソコンの使い方」などを一番の気がかりにしている母親は、「近所の友人・知人」からの情報を参考にしていた。

また、「自分の親」を参考情報源の第1位としている母親は、「子どもの教育費」や「友だちとのかかわり方」などを一番の気がかりにしていた。自分自身の「人間関係」や「からだの健康」を一番の気がかりにしている母親は、「インターネットやブログ」を参考情報源の第1位としてあげることが多かった(図表省略)。

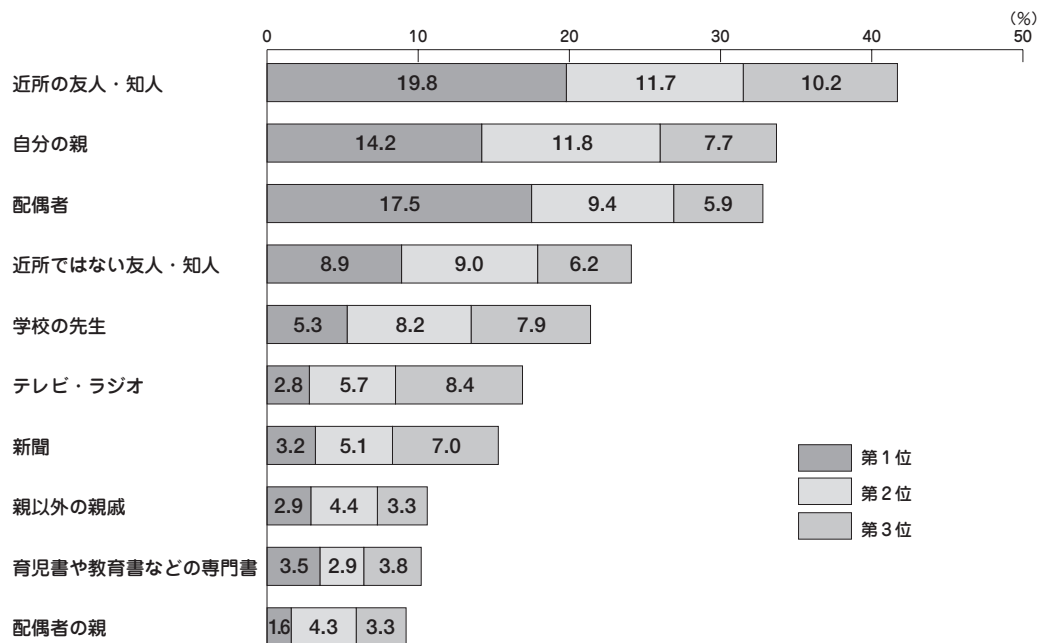
● 常勤は「自分の親」、パートやフリーは「近所の友人・知人」、専業主婦は「配偶者」が参考情報源の第1位

次に、とくに参考にする情報源の第1位を母親の就業状況別に示したのが図1-4-2である。

専業主婦はパートやフリー、常勤と比べて「配偶者」を多くあげていた。パートやフリーは、日ごろから交流のある「近所の友人・知人」がとくに常勤に比べて多かった。

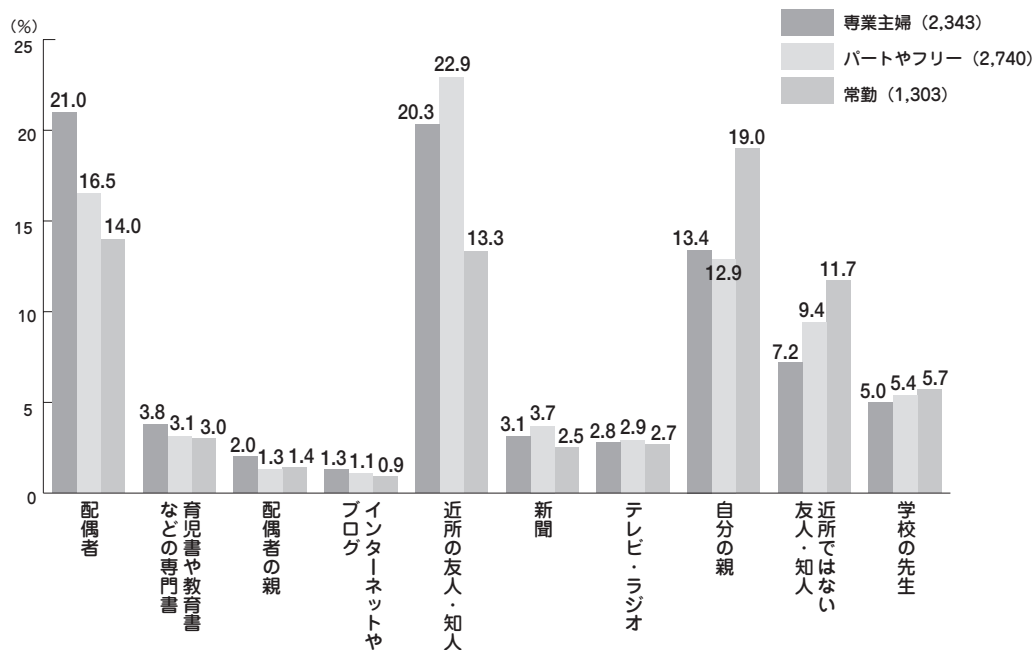
前節の図1-3-2では「自分の親」を、情報源として専業主婦と常勤が近い数値をあげていたが、もっとも参考に行っているのは常勤であることがここで明示された。また、「近所ではない友人・知人」も他に比べて常勤が多かった。母親はさまざまな情報源に囲まれているが、就業状況との関係でとくに参考にする情報源には差異がみられた。

図1-4-1 参考にするしつけや教育の情報源（順位別）



注1) 20項目のなかからとくに参考にする人やものを「第1位」「第2位」「第3位」まで選択。合計値が大きかった上位10項目を図示した。
 注2) サンプル数は6,770名。

図1-4-2 参考にするしつけや教育の情報源・第1位（就業状況別）



注1) 数値はとくに参考にする人やものの「第1位」の%。20項目中10項目を図示した。
 注2) ()内はサンプル数。

第5節

子育ての気がかりと参考にする情報源

子どもの成長にあわせて友人、親、配偶者からの情報を適時に活用しているが、とくに気の合う“友だち世代”での情報交流が要である。もっとも参考にする情報源は、母親にとって気がかりを解決するガイドであり“子育て規範”でもある。

● 子どもの友だちづきあい、受験情報、友人からの口コミが心強い味方

参考にする情報源第1位の学年別の推移を前節の図1-4-1の上位5項目で比較したのが図1-5-1である。

「自分の親」は学年が上がるにしたがって下降するが、「配偶者」と「学校の先生」は学年を通してほぼ一定の割合で横ばい状態である。

学年推移のなかで、似たような曲線を描いているのが「近所の友人・知人」と「近所ではない友人・知人」である。これら2つは、小5生の段階でもっとも数値が高くなり、もっとも参考にする情報源とされている。

子どもの個人的な成長や学年の進行とともに母親の子育ての関心事が変化するが、それにもない参考にする情報源も変化する。

そこで、小5生の母親の「子育ての気がかり」と「とくに参考にする情報源第1位」を掛け合わせて比較した。その結果では、「子どもにあった習い事や塾、教材選び」や「友だちとのかかわり方」「学校生活の様子」「しつけの仕方」「ほめ方・しかり方」を一番の気がかりとしている母親の多くが、とくに参考にする情報源の第1位として「近所の友人・知人」を選んでいった。

また、「家庭学習の習慣」「子どもの進路」や「子どもの性格、現在の態度や様子」を一番の気がかりとしている母親は、「近所では

ない友人・知人」をとくに参考にする情報源第1位にあげていた（図表省略）。以上のように、子どもが新たな発達時期や教育の節目に入る小5生の母親は、悩みの内容によってそれぞれが適切な友人・知人を選んで相談している様子が表れていた。

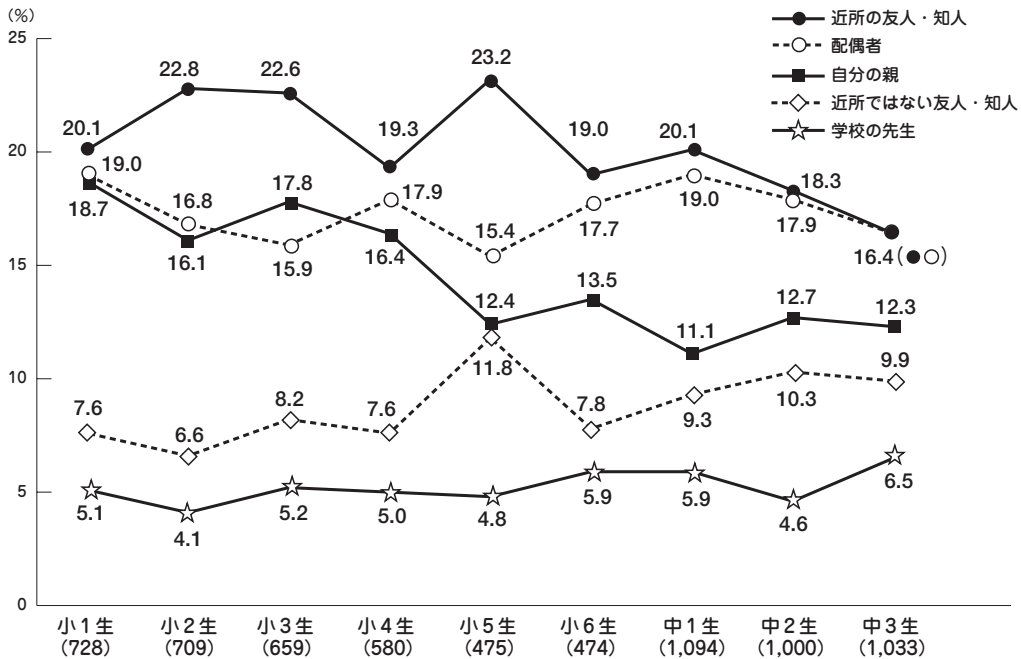
● 友人や自分の親、教育専門書は増加、配偶者や学校の先生は減少傾向

98年調査と02年調査結果との経年比較を図1-5-2に示した。

「自分の親」についてみると、98年調査の「実家の母」を02年調査以降は「自分の親」と改訂したため父親も含まれて増加した可能性があるが、02年調査と比べても増加傾向にある。とくに「近所の友人・知人」と「近所ではない友人・知人」が98年調査からともに増加して、“友だち世代”と歩調を合わせた情報交流が育児の要になっているようだ。そのためか、「配偶者」と「学校の先生」は98年調査から減少してきている。

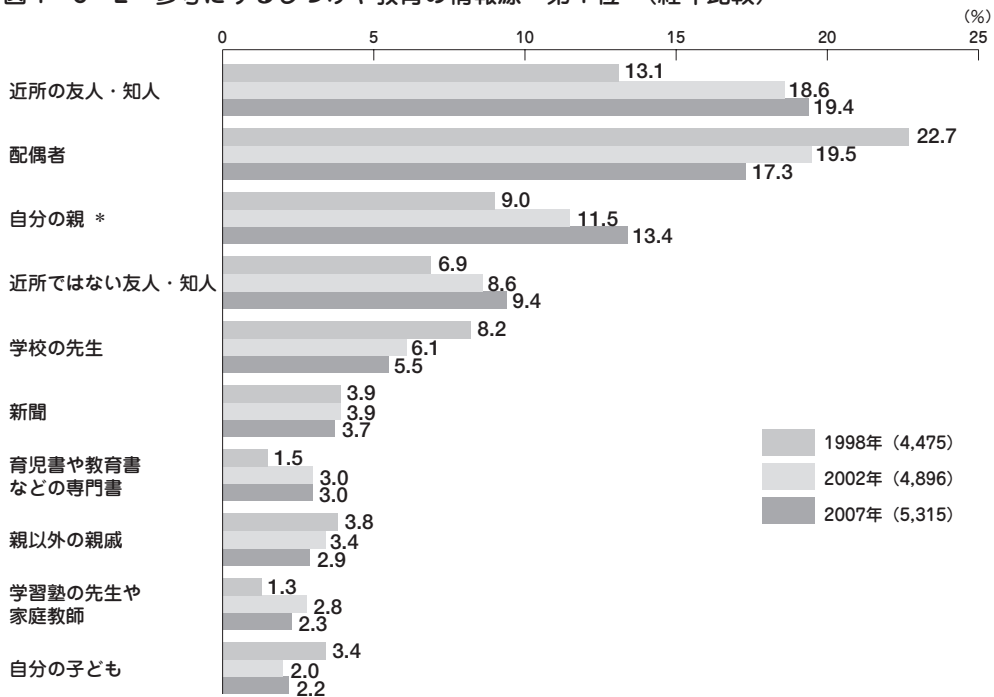
また、「育児書や教育書などの専門書」は02年調査から横ばいであったが、98年調査と比べて若干増加傾向にあった。これは3節で述べたしつけや教育の情報源の「その他」の自由記述の回答が多かった、教育意識が高い層に向けた専門的な「教育・子育て関連の雑誌」が日常的に支持されている現状も関係していると思われる。

図1-5-1 参考にするしつけや教育の情報源・第1位（学年別）



注1) 数値はとくに参考にする人やもの「第1位」の%。20項目中図1-4-1 (p.23) で示した上位5項目を图示した。
 注2) () 内はサンプル数。

図1-5-2 参考にするしつけや教育の情報源・第1位（経年比較）



注1) 数値はとくに参考にする人やもの「第1位」の%。20項目中上位10項目を图示した。
 注2) 小3～中3生の数値。
 注3) *は1998年調査では「実家の母」と表記していた。
 注4) 各調査年で調査票内で選択肢として列挙した項目が異なるものもあるため、厳密には単純な数値の比較はできない。したがって巻末基礎集計表では1998年調査、2002年調査の数値を掲載していない。
 注5) () 内はサンプル数。

毎日の自分の生活や行動に“見通しがきく子ども”が減っている。「遊んだあとの片づけや部屋の整理整頓」が「完全に一人のできる」小学生は10人に1人、中学生は6人に1人であった。02年調査では小学生で8人に1人、中学生で5人に1人であったが、今回の調査でさらに減少した。

● 基本的なマナーは守られているが、自律的な生活リズムはついていない

子どもの「日ごろの様子や生活習慣」の自立状況を12項目について「完全に一人のできる」「だいたい一人のできる」「あまり一人ではできない」「まったく一人ではできない」の4段階でたずねた。07年調査の小1生から中3生までの全体で、「完全に一人のできる」と答えた割合が多い順番に並べたのが図1-6-1である。図では「あまり一人ではできない」と「まったく一人ではできまい」の回答は省略している。

「完全に一人のできる」と「だいたい一人のできる」を合わせた「一人のできる」割合(以下同)の上位は、①「乗り物や路上などのマナー」91.4%(02年調査92.3%、以下同)、②「あいさつやお礼を言うこと」87.3%(88.7%)、③「翌日の学校の用意や準備」86.1%(88.2%)、④「歯磨きの習慣」83.2%(84.1%)、⑤「食事のマナー」82.0%(84.6%)の順であった。今回の調査の数値と02年調査の数値を比べると、どの項目もすべて「一人のできる」割合が02年調査より若干ではあるが減少していた。

「決まった時間に起床・就寝すること」「家事の手伝い」「遊んだあとの片づけや部屋の整理整頓」「計画的に勉強すること」などのように、自分で決めて行動したり、見通しをつけて最後まで責任をもってやりとげるような習慣を身につけていないと親が受け止めている現状が表れていた。

● 「遊んだあとの片づけや部屋の整理整頓」が「完全に一人のできる」のは、小学生は10人に1人、中学生は6人に1人

小1生から中3生までの9学年では自立や成長発達の段階で数値の変化に大きな違いがみられる。

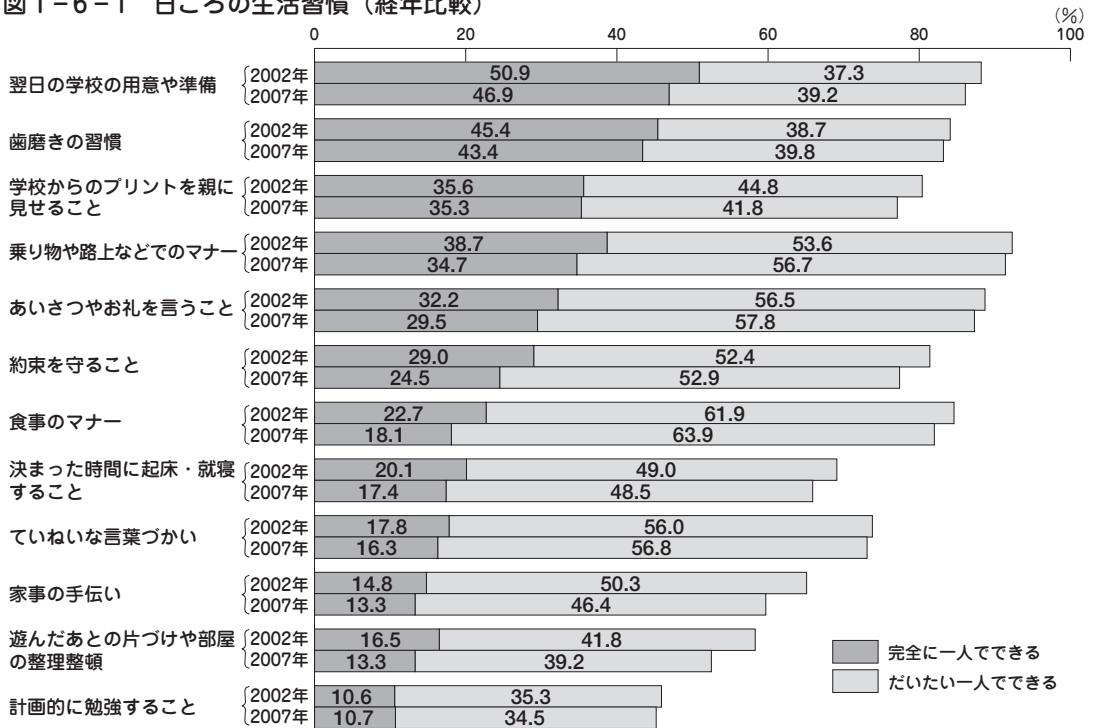
そこで、「完全に一人のできる」割合を学年別の推移で比較したのが図1-6-2である。

「決まった時間に起床・就寝すること」や「ていねいな言葉づかい」は、ほぼ同じように小1生から学年とともに上昇し、中3生では4人に1人はできている。

「家事の手伝い」は小1生8.8%から小6生14.8%まで上がり、中1生で14.1%と少し下がりその後中3生で16.9%と、家事をする中学生は少ないのが実態である。同じく、「計画的に勉強すること」も小1生6.0%から小6生14.8%までは上昇していたが、中学入学後には一度下降し、高校受験に向けた中3生でも17.9%止まりであった。

1節の「子育ての気付き」で全体値の第2位であった「整理整頓・片づけ」と同じ内容の「遊んだあとの片づけや部屋の整理整頓」は、小学生で平均して10人に1人、中学生でも6人に1人しか「完全に一人のできる」子どもがいなかった。02年調査では小学生で8人に1人、中学生で5人に1人であったのがさらに減少した(図表省略)。

図1-6-1 日ごろの生活習慣（経年比較）



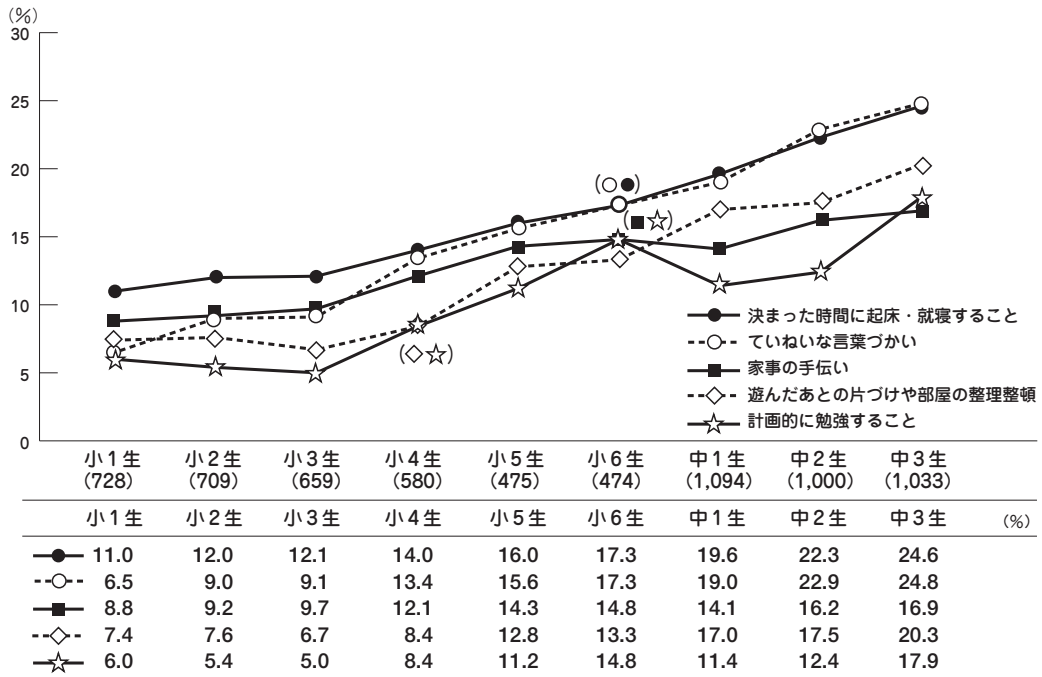
注1) 「あまり一人ではできない」と「まったく一人ではできない」の数値は省略した。

注2) 1998年調査では該当質問項目なし。

注3) 小1～中3生の数値。

注4) サンプル数は2002年6,085名、2007年6,770名。

図1-6-2 日ごろの生活習慣・「完全に一人ができる」割合（学年別）



注1) 数値は「完全に一人ができる」の%。12項目中5項目を图示した。

注2) () 内はサンプル数。

「計画的に勉強すること」が「まったく一人ではできない」割合が中学生で急増している。自律性や責任感、生活習慣のリズムがつかない子どもに対して、「もう少しきちんとやってほしい」と思う母親の意識は高まっている。

「計画的に勉強すること」と互いに関係が強い「片づけ」能力や「約束を守ること」

日ごろの様子や生活習慣の設問項目のなかで「まったく一人ではできない」と回答した割合についての学年推移をみたのが図1-7-1である。

「遊んだあとの片づけや部屋の整理整頓」(以下、「片づけ」)、「学校からのプリントを親に見せること」は小学生では小5生の難しい学年で「まったく一人ではできない」が上昇し、小6生で数値では低くなっているが、中学生になって、また上昇している。とくに「計画的に勉強すること」は、中学生になると「まったく一人ではできない」が明らかに急上昇している。これは、中学生になると学習内容も高度になり、高校受験に向けて親の関心が教育へと集中して、子どもへの期待感や要求水準が高くなる。しかし、子どもの実状とのギャップがこの数値に表れているとも思われる。また、中3生で下降するのは、高校受験を目前に控えて、子ども自身の自覚がみえることや生活習慣に関しては親の関心が薄れることも作用していると考えられる。

しかし、それぞれの生活習慣の項目間での関係を検定すると「計画的に勉強すること」は「約束を守ること」や「片づけ」との相関性が高かった。つまり、「片づけ」能力が低いと「計画的に勉強すること」も低いということになる。

さらにつけ加えると、多くの母親は子どもに「片づけ」能力がついていないと現在だけではなくて将来のことも心配になる。筆者が大学生を対象に同じ項目内容を用いて、大学

生本人の中学時代と現在の生活習慣の自己評価をさせた調査では、残念ながら子どもの今後への母親の懸念を裏づける結果が出た(「基本的な生活習慣と親子関係・友だち関係の調査, 2006」)。中学時代と現在の「片づけ」能力は高く相関しており、また、大学生としての現在の「片づけ」能力と「計画的に勉強すること」がもっとも強く関係していた。つまり、小・中学生時代にこれらの生活習慣や自律性を身につけることが、将来にわたって長く影響をおよぼし続けることになっていた。

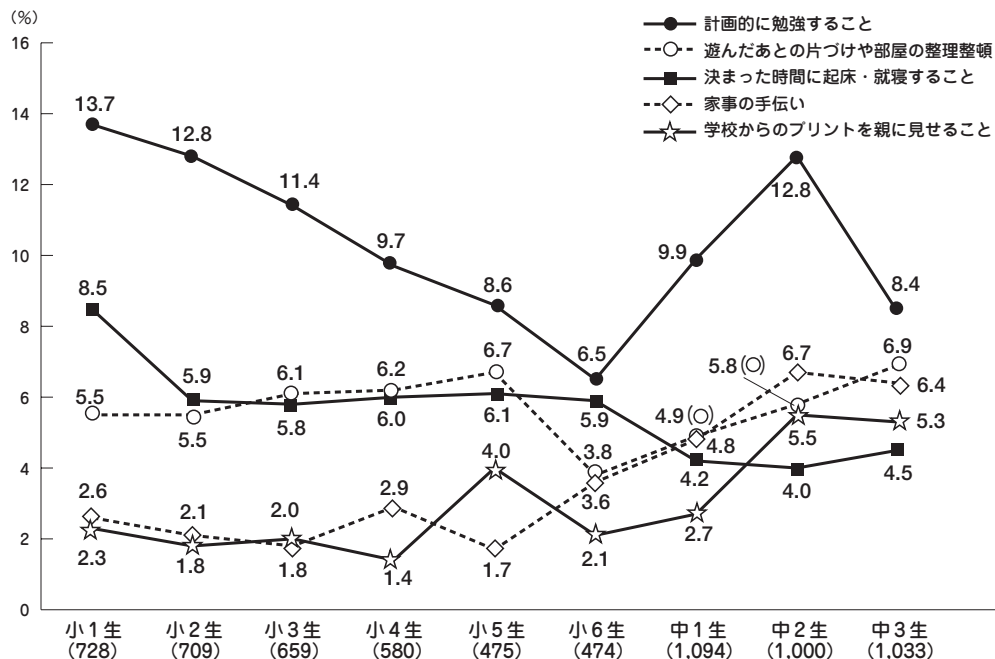
2人に1人の母親が子どもにもっときちんと「片づけ」をしてほしい

現在子どもに「もう少しきちんとやってほしい」と思うことを前節の12項目からいくつでも選んでもらった。その結果で多かったのは①「片づけ」45.5%、②「計画的に勉強すること」41.8%、③「決まった時間に起床・就寝すること」23.0%、④「あいさつやお礼を言うこと」18.3%、⑤「約束を守ること」17.5%であった(巻末基礎集計表参照)。

これらの上位項目は図1-7-1で「まったく一人ではできない」割合が高い項目とも一部一致していた。図1-7-2は「もう少しきちんとやってほしいこと」の上位5項目について、学年別の推移を示したものである。

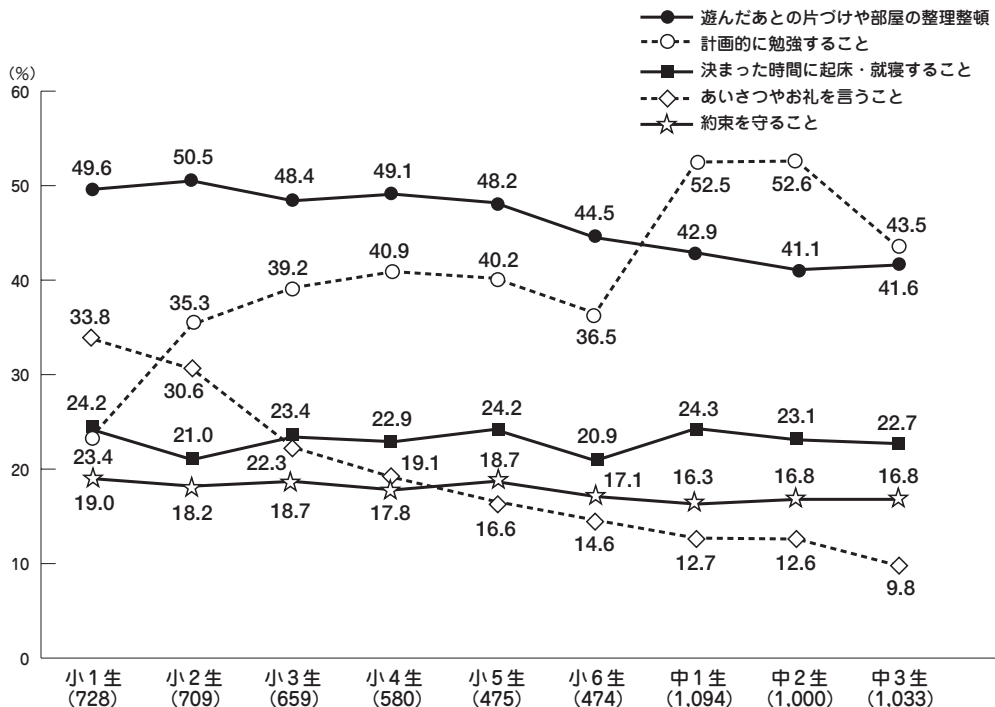
「あいさつやお礼を言うこと」は低学年ほど目立って多いが、「計画的に勉強すること」を除く他の3項目はどの学年もほぼ一定した割合で母親は期待していることがわかった。しかし、「計画的に勉強すること」だけは小6生で一度、期待意識が下がり、再び中1生で急上昇して図1-7-1と同じような曲線

図1-7-1 日ごろの生活習慣・「まったく一人ではできない」割合（学年別）



注1) 数値は「まったく一人ではできない」の%。12項目中全体値（小1～中3生）の上位5項目を図示した。
 注2) () 内はサンプル数。

図1-7-2 もう少しきちんとやってほしいこと（学年別）



注1) 複数回答。12項目中全体値（小1～中3生）の上位5項目を図示した。
 注2) () 内はサンプル数。

を描いていた。小6生や中3生で下降するのは、小6生では中学受験生も含むことや、中3生では子どもが自主的に高校受験に向けて勉強せざるを得なくなる環境になることもその一因と思われる。

● 男子には責任感や社会ルール、 女子には思いやりや生活リズム

日ごろの生活習慣についてたずねた12項目について、「完全に一人のできる」と「だいたい一人のできる」を合わせた自立度はすべて女子のほうが男子より高かった（巻末基礎集計表参照）。しかし、母親が「もう少しきちんとしてほしい」と思うことには、男女差が明確に表れていた（図1-7-3）。

男子のほうが女子より3ポイント以上割合が高いのは、「計画的に勉強すること」「約束を守ること」「学校からのプリントを親に見せること」「翌日の学校の用意や準備」であった。一方、女子のほうが男子より3ポイント以上高いのは、「家事の手伝い」「ていねいな言葉づかい」であった。

以上のように、男子には学習関連や社会的なルール・責任感を中心とした内容を「もう少しきちんとしてほしいこと」としてあげており、女子には家族や周りの人に対する思いやりや生活を中心とした内容を多く期待している。02年調査同様に母親の性役割意識が表れていた。

前節で述べたが、「日ごろの生活習慣」の「一人のできる」割合の上位の5項目の数値はすべて02年調査の数値より下回っていた。それにともない、「もう少しきちんとしてほしい」と思う割合は「ていねいな言葉づかい」以外はすべての項目で02年調査の数値よりわずかではあるが高くなった。

また、母親の就業状況別では専業主婦がパートやフリー、常勤よりも生活習慣への期待意識が全般的に高いことが特徴的である。そのなかで常勤が専業主婦に比べて高かったのは、「翌日の学校の用意や準備」と「学校からのプリントを親に見せること」であった。

● 生活習慣の自立状態の満足度は、 この9年間で少しずつ減少

子どもの「生活習慣や自立の状況」の満足度をたずねた結果を経年比較したものが図1-7-4である。

98年調査から02年調査、そして07年調査と少しずつではあるが「満足している」（「とても満足している」＋「まあ満足している」の%）が減って、「満足していない」（「あまり満足していない」＋「ぜんぜん満足していない」の%）が増加している。

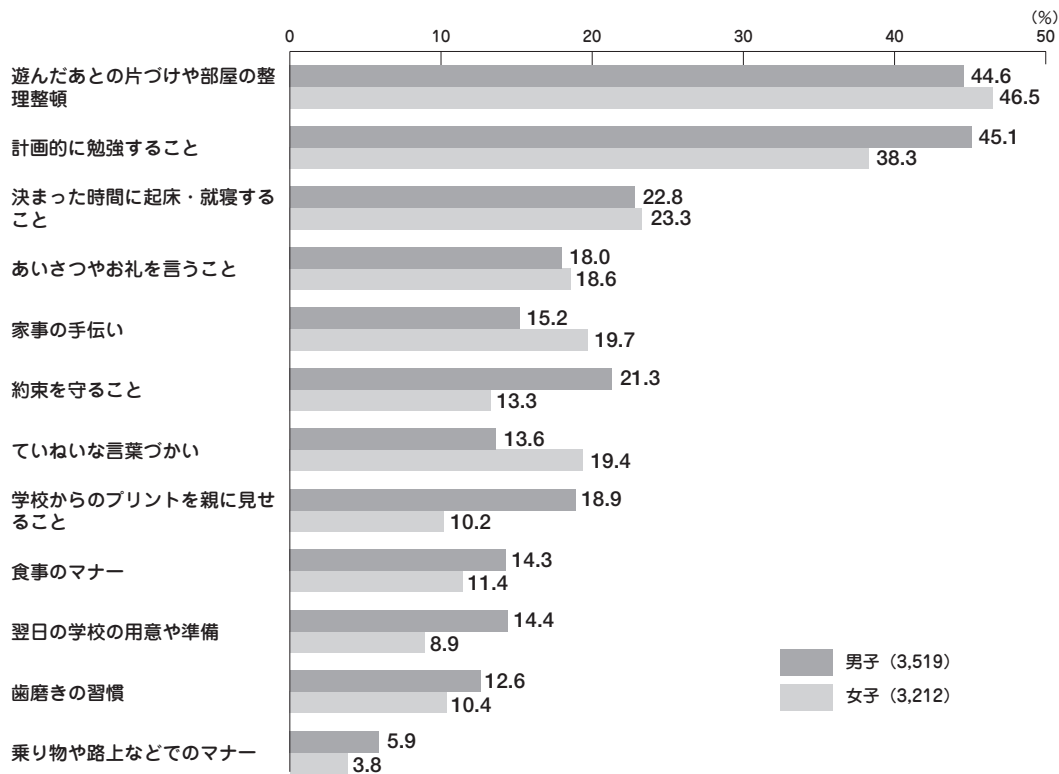
また図表は省略するが、満足度が高かったのは男子より女子の母親、第1子より第2子以降の子どもの母親、そして就業状況別では専業主婦であった。これは母親が認識している子どもの自立状態と呼応している結果であった。

前節でみた日ごろの生活習慣の12項目の4段階評価をそれぞれ「完全に一人のできる」を4点、「だいたい一人のできる」を3点、「あまり一人ではできない」を2点、「まったく一人ではできない」を1点として個人の自立度得点を合算した結果では、平均が35.6点であった（02年調査36.4点）。それを12項目で割ると3点弱で「だいたい一人のできる」になり、およそ「まあ満足している」61.6%に対応していた。

また、個人の自立度合計得点を高（38～48）、中（34～37）、低（12～33）という3つのグループに分けた。その3区分と「もう少しきちんとしてほしい」と回答している12項目をかけ合わせたところ、基本的には自立度の低いグループがどの項目においても、明らかに「もう少しきちんとしてほしい」と母親が子どもに期待していた。

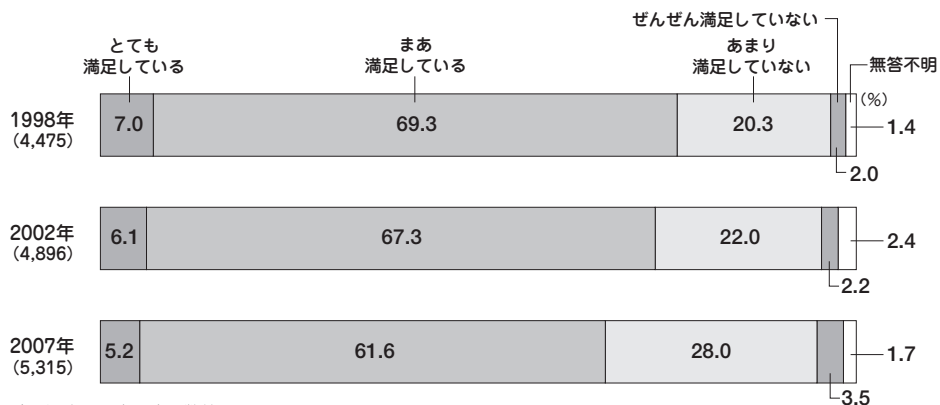
しかしながら、高得点のグループの母親であっても、「片づけ」32.2%、「計画的に勉強すること」31.3%と、3人に1人が現在より以上にもう少しきちんとしてほしいと子どもに期待していた。これらは頻差で増加しているが、ほぼ02年調査と同様の結果を示していた（図表省略）。

図1-7-3 もう少しきちんとやってほしいこと（性別）



注1) 複数回答。
注2) ()内はサンプル数。

図1-7-4 生活習慣や自立状況への満足度（経年比較）



注1) 小3～中3生の数値。
注2) ()内はサンプル数。